

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年 4月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	2771501158
法人名	社会福祉法人 なみはや
事業所名	グループホーム なごみ
所在地	大阪府大阪市東成区中本3-17-1 (電話) 06-6971-9900

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階
訪問調査日	平成21年3月17日
評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】(平成 21年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	12人
非常勤	4人
常勤換算	11.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	3 階建ての 2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	30,000 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 300,000 円 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,500 円		

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	4 名	要介護2	5 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	東和病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

商業地域と住宅地域が共存する大阪市東成区の街中にあり、地下鉄緑橋駅から近く、交通至便な所に位置するホームです。廊下や広く明るいリビングには、季節に合わせた飾り付やたくさんの絵画が飾られており、ゆったりと穏やかに過ごせるような空間を作り、利用者一人ひとりのペースで生活できるような支援を心がけています。また、管理者及び職員間のコミュニケーションがよく取れており、職員の定着につながり、利用者にとっても常に馴染みの職員に支援を受け、落ち着いて生活ができています。地域のグループホームの交流会が活発であり、情報交換の場となり今後のサービスに活かしていきたいと意欲的に取り組まれているホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果を活かした取り組みとして、特に意識をしたことは行っていないが、業務改善の結果として、理念の掲示や介護計画のモニタリングなど改善された項目はあります。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は、管理者がスタッフの意見を聞きながらまとめ、職員会議で回覧しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の代表と家族、地域包括センター職員、ホーム理事長、管理者、リーダーをメンバーとし、2ヶ月に1度開催しています。ホームの活動内容や課題の報告、家族からの質問や要望、職員の動向、行事の紹介などが議題とし話し合っています。行事の参加につなげたり、要望に応えたりサービスの向上に努めています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	重要事項説明書にホーム及び公的な機関の苦情相談窓口を明記すると共に、ホームの入り口にご意見箱を設置しています。また、運営推進会議の際や来訪時にできるだけコミュニケーションを多くとり、報告したことについての意見をもらうように心がけています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、回覧板などで行事や地域の情報を得ています。地藏盆や盆踊りの季節の行事の参加や地域のふれあい喫茶の参加を心がけています。また、日々の散歩時には、近隣に顔なじみの住人がおり、声をかけてもらったり交流があります。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者様やご家族、職員などの全ての人の尊厳を大切にすること」という事業所独自の理念を掲げ、それを基に各ユニット毎でも職員全員で話し合い理念を作り上げています。地域の中で暮らしていく地域密着型サービスとしての理念を意識するものではありません。	○	地域とのつながりを大切にしていきたいと考えていることもあり、その思いを現在の理念に加えてみてはいかがでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの入り口にホームの理念、各フロアにはフロア毎の理念を掲示しています。また、その理念を実践できているか、毎日個々に振り返り個人ノートに記入し、フロア会議でその内容を話し合っています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、回覧板などで行事や地域の情報を得ています。地蔵盆や盆踊りの季節の行事の参加や地域のふれあい喫茶の参加を心がけています。また、日々の散歩時には、近隣に顔なじみの住人がおり、声をかけてもらうこともあり、自然な交流があります。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、管理者がスタッフの意見を聞きながらまとめ、職員会議で回覧しています。また、前回の評価結果を活かした取り組みとして、特に意識をしたことは行っていません。業務改善の結果として、理念の掲示や介護計画のモニタリングなど改善された項目があります。	○	毎年の自己評価、外部評価を実施する意義をもう一度職員間で理解し、職員全員でホームの課題を話し合い、何から取り組んでいくか計画的に進めていくことが望まれます。また、次回の自己評価は職員全員で検討しながら、まとめていくことを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表と家族、地域包括センター職員、ホーム理事長、管理者、リーダーをメンバーとし、2ヶ月に1度開催しています。ホームの活動内容や課題の報告、家族からの質問や要望、職員の動向、行事の紹介などが議題とし話し合っています。行事の参加につなげたり、要望に応えたりサービスの向上に努めています。		

グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区役所と手続き等の必要な時以外の行き来は殆どありません。ボランティアの受け入れのことで近々役所に確認に行く予定はしています。	○	運営推進会議の結果を直接持って行ったり、区役所に足を運びながら運営やサービスについての報告や相談から始められてはいかがでしょうか。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、ホームの行事や様子を掲載した「なごみ通信」という便りを発行すると共に、1ヶ月間の個々の様子が書かれた手紙を郵送し、全ての家族にきめ細かな報告をしています。また、毎月支払いに来られた際には、預かり金台帳を確認してもらい、領収書を渡しています。来訪時、直接コミュニケーションをとり個々の様子を伝えています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び公的な機関の苦情相談窓口を明記すると共に、ホームの入り口にご意見箱を設置しています。また、運営推進会議の際や来訪時にできるだけコミュニケーションを多くとり、報告したことについての意見をもらうように心がけています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理職は職員とコミュニケーションを大切にし、ストレスの緩和に努め、昨年から離職が見られなくなりました。そのため、利用者と馴染みの職員が支援できる体制ができ、異動や職員が変わる場合にも馴染みの職員が新しい職員との間に立ち利用者への影響の少ないよう配慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通しての内部研修の計画はありませんが、介護支援専門員が中心となり全体会議の際に伝達研修を行っています。外部研修の開催の案内は回覧していますが、事業所として積極的なバックアップする体制はありません。	○	職員を育成するための体制を組織的に構築していくことが望まれます。1年を通して、職員に必要な研修内容をピックアップし、全体会議等で勉強会を計画的に行っていくことから始められてはいかがでしょうか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区内のグループホームとの交流が定期的に行われています。管理職の交流会は2ヶ月に1回、職員交流会は毎月開催され、情報交換が活発に行われています。今後、交流会の中からホームのサービスに活かしていくことを考えています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に家族から生活歴を聞いたり、実際に自宅を訪問して以前の暮らしの情報を得て、入居に向けて環境を整えています。入居の際は、体験利用の受け入れを行っており、家族と連絡を密にとりながら、徐々に馴染むことができるように支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	個々の利用者の得意なことを把握し、一緒に行かないながら教えてもらう場面を作っています。共に暮らしていく中、利用者が言いたいことが言いやすい関係作りができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	計画作成担当者が中心となり、本人や家族、職員から聞き取ったことを基に検討し、思いや意向の把握に努めています。入居時センター方式に取り組んでいましたが、現在の状況にあった継続したものになっていません。今後、必要なものを抜粋して、現状に沿ったアセスメントを行っていく予定にしています。	○	職員からの聞き取りやコミュニケーションの中から得られた情報を、アセスメントに集約したり会議で話し合うことで本人の希望や意向を検討する場となることを期待します。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアの内容を検討する会議は行っていますが、介護計画を意識した会議にはなっていません。本人や家族、職員と話したことを基に計画作成担当者が介護計画を作成しています。介護計画の立案・変更に向けての会議を開いていきたいと考えています。	○	日々のケアは介護計画に行われていることを職員全員が理解し、介護計画の立案・変更についてが意見を出し合える機会を持つことを期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期目標を3ヶ月、長期目標を6ヶ月の期間で設定し、見直しを行っています。また、毎月のモニタリングも行い始め、現状に沿った介護計画になっているか評価する機会もあります。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望のかかりつけ医への受診同行をしています。また、入居前からの行きつけの喫茶店があり、希望があれば一緒に行くなど、個別の希望に合わせた外出支援等を行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合いかかりつけ医を決めています。2週間に1度の提携医の往診、週に5日訪問看護の訪問を受け、健康管理や必要な医療が受けられるよう支援しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期に向けて、ホームでできないことの話をし、緊急時の救急搬送についての同意を得ています。重度化がみられた場合には、医師と家族訪問看護師と話し合いを重ね対応を検討しています。ホームとしての重度化に向けた指針を文書化したものは作られていません。	○	ホームとしての方針を明確にし、全職員及び家族が共通認識を持ち、実際に重度化した利用者に対して、チームとして取り組んでいくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	地域の言葉や親しみがありながらも、丁寧な言葉遣いを心がけています。不適切な言葉遣い等がみられた場合には、その都度注意を促しています。また、個人ファイル等の記録については、鍵付きの書庫に適切に保管しています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間等決めておらず、朝食の時間も利用者に起きる時間によってバラバラになっています。その日、その時々希望を聞きながら、個々の利用者のペースで生活できるように支援しています。		

グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ねぎを刻んでもらったり、もやしの根取りなどの食事の下ごしらえや食事の後の食器拭きなど、利用者のできることを一緒にしています。食事時はできる限り一緒に食卓に着き、同じものを食べ、食事が楽しめるよう支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、午前中から15時くらいの間に、希望を聞きながら入浴してもらっています。入浴拒否の利用者には、声かけのタイミングや声のかけ方など工夫し、週に2回は入浴できるように支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物をたたんだり、テーブルを拭くことなど、生活の中で役割を持っている人がいたり、書道や音楽療法など趣味を楽しんでいる人もおり、一人ひとりが違った楽しみごとや役割を持って生活できるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の希望があれば、近隣の公園等に散歩に出かけています。冬場には希望が少なく、暖かい日には声をかけ少しでも外に出られるように支援しています。2週間に1度程に買い物と一緒に出かけています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームは街中にあり、外に出ると車の通りも多いこと、ホーム内に死角も多く安全のため、フロア入り口と玄関に施錠をしています。家族にはその理由を説明し了承を得ています。また、職員は利用者が外に出たいときには、できるだけ出ることができるよう支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回災害時の避難訓練を行っています。2回の内1回は消防署に依頼をし、もう1回は詳しい職員が中心となり、昼夜問わず避難できるよう訓練を行ない、課題を明確にし積極的に取り組んでいます。地域の住人等への働きかけは行っていません。	○	地域で行われる消防訓練への参加やホームでの避難訓練に地域の住人にも参加してもらえるような働きかけを行ない、協力が得られるような取り組みを期待します。

グループホームなごみ

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者の栄養士の立てた栄養バランスの考えられた食事を提供し、食事及び水分摂取量をチェックし記録に残しています。体調や嚥下機能に合わせて粥や刻み職ミキサー食等対応したり、好みで食べれないメニューのときは、別メニューを準備しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアごとに利用者の生活状況を踏まえテーブルやソファの位置を決め、居心地のよい空間作りを心がけています。廊下やリビングの壁には心癒される絵画が多く飾られており、季節の行事に合わせて飾りつけがされています。空気清浄機や加湿器等を置き、心地よく過ごせるように工夫しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた家具等を持ってきてもらえるように話をしています。たんすやテレビ、仏壇などを置き、ぬいぐるみで飾られている居室もあり、その人らしい生活空間になっています。また、畳を居室に敷き、和室での生活をしている入居者もいます。		